

2020年(令和2年)

第149号

(5月1日)

# 平安月報

The HEIAN monthly report

発行所：立正佼成会 京都教会  
 発行責任者：渉外部長 田中規之  
 編集委員長：渉外広報 植田恭司  
 〒605-0041 京都市東山区三条東町 230  
 TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

## 新型コロナウイルスによる活動自粛 ～会員の取り組み～

新型コロナウイルス感染症対策により、教団・教会での活動が自粛されています。そのような中でも、この機会を前向きに捉え、さまざまな活動に取り組んでいる会員がおります。それらを紹介致します。

●今年花まつりで新一年生を紹介できなかった代わりに、こんな状況でも喜んで頂けるようにと、まごころで作って頂いたリュックと給食袋を、少年部長さん中心に用意して、郵送でプレゼントさせて頂きました。リュックは西京の西主任さん、給食袋は京洛の中川会計さんが作って下さって、保護者宛の手紙は花まつりプロジェクト、小学生がメッセージを書いてくれたものを同封しました。



### ごにゅうがく おめでとうございます

がっこうせいかつでは、  
3つのじっせんをがんばって、  
まわりのひとに、よろこんで  
もらえるこに、なってください。

**3つのじっせん**

- じぶんから、さきに「おはようございます」のあいさつをしよう
- よばれたら「ハイ」とハッキリへんじをしよう
- はきものをそろえ、せきをたったらイスをいれよう

りっしょうこうせいがい きょうとくきょうかい しょうねんぶ  
立正佼成会 京都教会 少年部

絵 洛観支部 宇野りな

受け取った会員からのメッセージです。

●我が家の新一年生に心の込もったプレゼントが届きました😊ありがとうございました。息子はびっくりしていました。特に新二年生からのメッセージは嬉しそうでした。

また、手紙には分かりやすく三つの実践が書かれていて、子どもの心に入りやすいと思いました。たくさんの方がお祝いして下さいた事を忘れず元気に通学して欲しいです。ありがとうございました。子供からのお手紙も喜んでくれた～✨

●おばあちゃんの家で、お泊まりしていたお孫さんを家に連れて帰ったら、ちょうどポストに、少年部からの、プレゼントが届いていて、嬉しかったです。と本人から…。私が作ったわけでも無いですが、お礼の電話を頂きました。

おばあちゃんもお母さんも、感謝されていました！頂いた、豆菩薩さんとのご縁、大切にしていまいます。少年部長さん、婦人部長さん、ありがとうございました🙏郵送する、お慈悲も教会から、いただけました事、お世話になった実行委員さん、みなさまのおかげさまと、感謝です🙏

●教会から、届きました♡帰って来たら見せておきます。ありがとうございます😊我が家もお嫁ちゃんからメール届きました。本当にありがとうございました。

●今日、プレゼントが届きました。有難うございました🙏真心のこもった可愛い手作りの袋に、感謝です🙏🙏🙏孫も喜ぶと思います。早速、孫に届けたいと思います。本当に有難うございました🙏

コロナウイルスの大変な時です。どうぞ、気をつけてご自愛下さいませ。有難うございました。

●今、かわいい袋が届きました！孫が好きそうな柄で、きっと喜ぶと思います。花まつりには参加しないと書いていたのに、袋を頂いてありがとうございます。

時事刻々

外出自粛が始まってひと月が経とうとしています。新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて、葵祭に続いて祇園祭や地域の祭りが相次いで中止されています▼自宅に閉じこもる生活が続く、それが長期にわたる可能性が高くなってきました。いかなれば元の生活に戻れるのか不安が高まる所です▼古来より、日本人は、普段通りの日常を「ケ」といい、祭礼などを行う特別な日を「ハレ」と呼び、日常と非日常を使い分けていました。最近はこの差がなく、「ハレ」の毎日を送っているともいわれています▼思い通りにならない日々ですが、これが「ケ」＝日常だと考えて暮らす方がいいみたいです。規則正しい生活を送ること、この時期に合わせた日常を作り上げる必要がありそうです▼多くの祭りが中止になりましたが、本来の目的である「厄災除去」のための神事は行われます。一人ひとりが生活スタイルを改めて、厄災を除くようにしたいものです。

## 今月のことば ～悠々として、心安らかに～ 伏見支部支部長 石田悦子

佼成5月号のお役を頂いた、伏見支部の石田です。教会が閉鎖されて2ヶ月が過ぎ、以前、ご命日参拝で支部の皆さんと確認法座の際に「今日、教会に参拝できる事はあたり前でないのですよ」と、お伝えしていた自分を思い出します。

本当にその通り、参拝したくても参拝できない時が、いま現実にあります。いつも目の前にあった「佼成」も手に届くことなく、今回はスマホから閲覧してノートに書き取り、何度も読み返しなが、少しでも会長先生のお心に近づけられるよう、学ばせて頂きたいと思ひます。

今月、会長先生から、「草餅説法」を教えてくださいました。島根県浜田市に妙好人、石見の善太郎さんのお話です。

若いころは「毛虫の悪太郎」と言われていた人が、やがて阿弥陀さまの信仰に目覚め「石見の善太郎」と敬愛されるようになりました。

ある日、善太郎さんの信仰仲間が訪ねて来られ、本山参りの際、一泊させて頂いた時に着物を盗んで持ち去ったと言われ、激しくののしられます。すると、善太郎さんは身に覚えがないにもかかわらず、その方にお詫びし、着物の代金を渡し、仏壇にあった草餅をお土産にと持たされました。

会長先生は、もし私たちが同じ立場におかれたら、この事態をどう受けとめ対処しますか、私はきっと自分を守るために釈明し、憤慨していると思ひます。

結局、着物を盗んだ人は別におり、善太郎さんの潔白は明らかになります。では何故、善太郎さんが、そのような事態を受け入れることができたのか。

会長先生は「阿弥陀さまにすべてをおまかせしてい

る」という善太郎さんの絶対的な「信」によるものではないかと教えて下さいました。

「やましいことは何もない。仏さまはすべてご照覧なのだ」そうした悠々として安らかな気持ちがあればこそ、あのように受け止めることができたのでしょう、と。

今、家の中でじっとしていると心が揺らいでしまいます。ライフライン、食事、情報と、不自由なく生活できているにもかかわらず行動の制限によって、人さまと触れられないもどかしさに心が疲れています。

受け入れがたい現実を受け止めて、悠々と安らかな心になるには、仏さまを信じ、この教えを私自身がしっかりと持ち続けることが大事と思わせて頂きました。

先日、車で買物に出かけている時、横断歩道に男性が立っていました。私はすぐに手前で車を止め渡って頂きました。すると、その男性はとてもうれしかったのか、渡った後も私にお礼の頭を下げてくださり、とても温かい心になりました。

次の日、散歩の帰りに横断歩道で車が通りすぎるのを待っていたら、すぐにトラックが止まってくれ、渡ることが出来ました。まるで、昨日の私の行動をすべて見て頂いていたようで、とてもうれしくなりました。

今、一人ひとりの心と行動が問われています。仏さまを信じ、教えを実践していくことで、生かし、生かされている縁に気づかせて頂きます。

一人でも多くの方と、感謝の気持ちが共有できるよう、今、できる精一杯の方法で皆さまとつながっていきたくと思わせて頂きました。ありがとうございました。 合掌

## 新型コロナウイルス感染症対策について ～府・市の取り組み～

京都府議会、市議会での新型コロナウイルス感染症対策について紹介します。各ホームページから転記しています。パソコンやスマホでご覧下さい。

京都府議会では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、本会議や委員会の直接傍聴および議会棟でのモニターテレビ視聴については、現在お断りしております。

なお、本会議や常任委員会、特別委員会は、府議会のホームページからライブ中継、録画映像でもご覧いただくことができますのでご利用ください。

インターネット中継

<http://211.5.166.28/gikai/index.asp> (外部リンク)

・京都市議会 インターネット議会中継

<https://www2.city.kyoto.lg.jp/shikai/chukei/index.html>

・向日市議会 市内の感染状況について

<https://www.city.muko.kyoto.jp/kurashi/kinkyu/1585565517890.html>

・城陽市 市内の感染状況について

<http://www.city.joyo.kyoto.jp/emergencyinfo/0000000041.html>

・宇治市 感染症対策に関する特別サイト

<https://www.city.uji.kyoto.jp/site/corona/>

・亀岡市 市内関連情報

<https://www.city.kameoka.kyoto.jp/korona-index.html>

# 日本三大祭り 祇園祭山鉾巡行が中止 ～永年にわたり青年部も貢献～

新型コロナウイルス感染拡大が収まらない中、八坂神社（京都市東山区）と祇園祭山鉾連合会（中京区）は20日、今年の祇園祭での神輿渡御（みこしとぎょ）と山鉾巡行を中止すると発表した。

神輿渡御の中止は1946年以来74年ぶりで、山鉾巡行の中止は1962年の阪急電鉄地下工事以来58年ぶりだが、過去にも応仁の乱や第2次世界大戦などで中断を余儀なくされたことがある。

町衆は苦難に直面しながらも、その度に危機を克服して祭りの歴史を刻んできた。「神事これなくとも、山鉾渡したき（神輿渡御が停止になっても山鉾巡行は行いたい）」（祇園執行日記）。

室町時代、神事の中止に際し、下京区の市民たちが祇園社にこう強く訴えた。政治的な背景はあるがこの記録を基に、山鉾巡行について歴史家・林屋辰三郎氏は、中世からまちの人が担った「町衆の祭り」であり、その心意気を表したものと評価してきた。

山鉾はこれに先立つ南北朝時代に出現し、巡行は戦乱時に中止された。応仁の乱（1467～77年）による中断は30年余りに及び、第2次世界大戦に伴って1943年から4年間、中断を余儀なくされた。

山鉾巡行には、疫神を集めるための囃子や踊りを伴う「神賑わい」の意味がある。新型コロナウイルスが流行する中、多くの人が集まれば感染を広げる恐れがあった。明治時代にはコレラの流行を受け、中止ではなく延期した例があるが、今回はほかの時期では警察などから許認可を得るのが難しいと判断した。

一方、巡行は一時的に取りやめても、新たな試みを加え、刷新して継承を図った歴史がある。平安時代以来の疫病退散を祈るとの精神性は受け継ぎつつも、応仁の乱後の1500年の復興では、現在も続く巡行順を決めるくじ取り式を行うようになり、幕末などの大火では以前より立派な山鉾を再建。1947年の一部復活は戦後復興の先駆けとなった。

疫病退散のための祭礼ゆえに、関係者には催行を求める声はなお根強い中、祈りの思いを引き継ぎ、来年の復興にどうつなげてゆかか。

現時点での方針として、山鉾の巡行と曳初め（ひきぞめ）・昇初め（かきぞめ）は行わない●山鉾建てについては6月上旬まで様子を見た上で決める●粽（ちまき）の授与については何からの形で行うーといった内容が発表された。八坂神社の森壽雄宮司は祇園祭の起源に触れながら「苦渋の決断だった。誠に残念だが、お祭りはいつの時代も柔軟な考えで継承されてきた」と話した。（「京都新聞」4月21日付朝刊より抜粋）



↑ 放下鉾

← 孟宗山

昨年担当した山鉾巡行の様子

## 日常生活の中の仏教用語 ～えっ？こんな言葉も仏教が語源？～

言葉のルーツを知って仏教に親しみを持ちましょう。

### 【修羅（しゅら）】

もとはサンスクリット語の「アスラ」で、それを音訳した「阿修羅」を略したもの。生きものが善悪の業によって生まれ変わるといふ六道のひとつで、常に争いを繰り返すもの、またその世界をいう。

「修羅場」「修羅の巷」は、激しい争いや戦いの場をいう。恨みやねたみに満ちた様子を「修羅の妄執（もうしゅう）」「修羅を燃やす」と表現する。

また「阿修羅のごとく」「阿修羅のような形相」といえば、怒りに満ちた表現、恐ろしい顔つきのこと。

阿修羅とは戦い好きの魔神である。本来は天界にすむ正義の神であったが、復讐にとらわれて、復讐の鬼となったために天界から魔界に墮ちてしまった。



（「仏教早わかり百科～主婦と生活社～」から抜粋）

## 庭 野 日 敬 開 祖

## 法 話 集

～開祖随感より～

## 「腹をすえる」

「この不況で、お先真っ暗だ」といった弱気が、いちばんの大敵です。指導者とは、指さし導く人と書くように、困難に直面した時こそ「ここを乗り越えるのだ」「必ず乗り越えられるんだ」と、まず自分を奮い立たせることが大切です。

リーダーは常に先行きを考えていなければならないのですから、人一倍心配や不安があって当然なのです。しかし、たとえば野球でも、監督が「このゲームはだめかもしれない」と思ったら、勝てる試合も勝てなくなってしまいます。監督が必ず勝てる、という信念を持ってこそ、選手がピンチに力を振り絞るのです。

安楽というのは平穩無事の楽しみではなくて、困難にも喜びを持って対せることなのです。佼成会も今日にいたるまでには、さまざまな困難がありました。しかし、何がしようと逃げるわけにはいきません。「すべては私の責任だ。ようし、どこからでもこい」と腹をすえてしまうと、「次は何がくるか」と、両手を広げて待ち構える余裕ができてくるのです。

リーダーの役目は、人びとに希望を与えることです。希望を持てば、人はへこたれるものではないのです。

## 「どっしりと構える」

東京に出てきたばかりのころ、縁日で占い師に「あなたは刺激がないとだめな人だ」と言われたことがありました。それから私は、困難な問題にぶつかると「いよいよおもしろくなってきたぞ」と、自分に言い聞かせるようになったのです。

ふだん、なんとか事が運んでいるときは、これまで続けてきたことを大きく変えるのは、できそうできて、なかなかできないものなのです。ところが、崖っぷちまで追い詰められてしまうと、嫌でも変えずにいらなくなるわけです。会社でも組織がガッチリと整ってしまえば、みんなが、このままではいけないと気づい

ていても、いろいろと差し障りがあって、これまでのやり方を変えることがなかなかできません。

むしろ不況の時こそ、体質改善の絶好のチャンスなのです。「この難関を乗り越えなくては」と、みんなが心を一つにして取り組むことができます。これが「提婆達多（だいばだつた）が善知識」と拜む法華経の考え方です。

ピンチをチャンスにしてしまえるようになったら、もう怖いものなしです。よいことがきても悪いことがきても、「いよいよおもしろくなってきたぞ」と、どっしり構えていられます。

## 「異類との出会い」

職場で気心の知れた仲間と手慣れた仕事を続けているほうが、居心地がよくて、能率も上がるように思えます。しかし、そこには落とし穴があるのです。

唐の南泉禅師に「すべからく異類中に行くべし」という言葉があります。異類とは経典にさまざまな形で登場する人間以外の存在です。私たちは、いつも同類の中にはばかりいると自分の癖や好き嫌い、愛憎にとらわれて、かたよった見方から離れられないのです。それを矯（た）め直すには、勇気をもって未知の世界へ、新しい出会いを求めていくことが大切だという意味にもとれましょう。

慣れは甘えを生み、自分の癖をむきだしにしてしまいがちです。それが自分の成長を妨げ、小さく固まらせてしまうのです。自分の内に眠る可能性を開花させるには、新しい出会いが必要です。

学校の新学期や会社の新年度は、その出会いのときです。「異類」との出会いは、緊張を強いられ、ときには苦しみを伴うこともあります。しかし、新しい出会いには必ず新しい幸せが待っているのです。そう信じきっていると、幸せのほうからこっちへ近づいてきてくれるのです。（つづく）

## 5～6月の主な教会行事

5月・6月 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、すべての行事は中止しています。

●不要不急の外出自粛が続く中、ご著書をじっくり読ませて頂く時間に出来るかもしれません。

今の時間を生かして、自身の充電期間にあてられるのはいかがでしょうか。

また本部のホームページから、会長先生の毎月のご法話など、拝読できます。

<http://www.kosei-kai.or.jp/> をパソコンやスマホでご覧下さい。

## ●メッセージ

不要不急な外出が自粛されている中で、自分たちには何が出来るのか、会員各自が考えておられると思います。東京佼成ウインドオーケストラでは、不安や悲しみを抱える人々に「音楽の力を届けたい」との願いから、YouTubeにおいて『TKWO 音楽の贈り物』と題して楽団員の演奏を公開したり、ツイッターを通じて楽団員への質問や相談を募集し、YouTube で回答されているようです。

<https://www.youtube.com/user/tkwojapan> 参照

演奏会が出来ないからと何もしないのではなく、置かれている環境の中で、具体的にこのように取り組まれている姿勢を少しでも見習っていきたいと思います。